

平成 22 年 6 月 13 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18520117
 研究課題名（和文） 近世中期文化を視野に入れた初期草双紙の総合的研究

研究課題名（英文） Research of Kusazoshi for Edo period mid-term

研究代表者

黒石 陽子 (KUROISHI YOKO)
 東京学芸大学・教育学部・教授
 研究者番号：40247268

研究成果の概要（和文）：2006 年度より 2008 年度までは、これまでに取り上げられること
 のなかった初期草双紙作品 27 点について基礎研究（書誌調査、翻刻、注釈、内容分析）を行い、
 学会を中心に初期草双紙資料を新たに紹介する成果を示した。2009 年度においては、前年度ま
 でに基礎研究した資料をはじめ、既に紹介、研究されてきた初期草双紙 230 点余りを対象とし
 て検討し、初期草双紙における表現方法（絵の構図、絵と文章との関係性等）について新たな
 見解を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：From 2006 to 2008,we reserched about 27 “Shoki Kusazoshi”-
 (“akahon”,“kurohon”,“aohon”),up to now,there were not investigated.And we introduced
 them to Academic society.In 2009,we analyzed about 230“Shoki Kusazoshi”. The aspect of
 analysis is “Composition of picture”and“Relations between picture and sentences”.We
 obtained a new opinion.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	800,000	0	800,000
2007 年度	700,000	210,000	910,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,600,000	540,000	3,140,000

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近世文学 書誌学

1. 研究開始当初の背景

初期草双紙についての基礎研究（影印掲載、
 書誌調査、諸本調査、翻刻、注釈、及び内容

分析）は平成 17 年度までの段階で当該研究
 グループによる成果だけで 200 点あまりの蓄
 積を有していた（これらは継続的に科学研究

費補助金を取得できた恩恵によるものである)。しかし未調査の初期草双紙はまだ膨大な量が残されており、基礎研究を継続して行うことが何より重要であった。

初期草双紙研究は戦前よりわずかな研究者の手によって行われて来たが、その特色の解明は概括的である憾みがあり、また具体的な基礎研究の成果が公開されないままに説明されることが多かった。そこでこれまでの研究も踏まえつつ、当該研究会が継続してきた基礎研究を踏まえ、200点余りの具体的な初期草双紙の事例を分析して、その特色の解明や意味についての検討を行い、新たな視点からのアプローチが必要であった。

2. 研究の目的

初期草双紙の基礎研究（影印掲載、書誌調査、諸本調査、翻刻、注釈、及び内容分析）を継続していくことが第一にあげられる。先に記したように、現存する初期草双紙のうち、未調査のものはまだ膨大な数残されている。したがって、今後も一点一点の作品の基礎研究は必須であり、その研究を継続する。また基礎研究の済んでいるものについては、初期草双紙独特の表現方法についてを明確にする視点、さらには初期草双紙を解明する総合的な視点を模索していくことが必要である。さらにそれらを踏まえて、近世中期の文化史、教育史、精神史の資料としての意味も明らかにしていく必要がある。

3. 研究の方法

(1) 初期草双紙の基礎研究（影印掲載、書誌調査、諸本調査、翻刻、注釈、内容分析）を行う。東京を中心に各所蔵機関に初期草双紙が収蔵されているので、所蔵機関に出向き、原本の調査を行う。同一作品の版本が複数残されている場合は、さらに各本についての調査を行う。これにより、各本が同一の時期に出版された本か、後刷、あるいは再版されたものかについて書誌調査を行う。それらのうち、最も善本を選んで、所蔵機関の許可を得、影印資料を作成する。さらに作品のくずし字を翻刻し、語句の注釈、及びそれ以外の必要事項の調査を行い、作品の典拠や創作部分についての分析を行う。

(2) これまでに基礎研究が行われている初期草双紙を対象に主に下記の3点から研究を行う。

① 一つの作品を選び、作品を構成している絵の表現方法に注目し、文章との関係を捉えながら、絵の表現方法の特色を分析する。初期草双紙は一画面の中に絵を主体として描きながら、絵の空白の部分詳しい文章で埋めて、物語を展開させていく方法を取っている。したがって絵と文章が補完し合って作品を成立させている。平均15場面から作られて

いる。絵と文章と合わせて表現するのは絵巻物と共通するが、絵巻物が文章を読んだあとに挿絵で内容を確認し鑑賞するのに対し、初期草双紙は絵と文章が同時並行的に関係しあっている。その具体的な分析を行う。

② 同じ題材や場面を扱った作品を選び、どの作品にも共通して取り上げられている場面について、場面の表している内容や状況、構図の共通性とその意味、文章部分との関係性について分析する。

③ 初期草双紙以前から成立している場面が初期草双紙ではどのように扱われているのか、また初期草双紙以降にはどのように継承されていくのかを調査分析する。

初期草双紙の絵の表現方法には、後期の浮世絵などに比べれば、まだ確立しているとは言えないものの、表現の「型」があると考えられる。有名な場面の構図を踏襲したり、踏襲されている部分を意識的に少し変えることによって新たな面白さを作り出す工夫が見られる。それらの経緯を経て、その中から「型」が確立し、後期の作品はその「型」を踏まえながら活用して、新たな芸術表現へと展開していったと考えられる。

4. 研究成果

(1) 初期草双紙の基礎研究（影印掲載、書誌調査、諸本調査、翻刻、注釈、内容分析）

2006年度より2008年度までに下記の作品について基礎研究を行った。

『女三宮簾の追風』
『新板 仇敵打出槌』
『須磨浦青葉笛』
『にほいふくろ』
『和泉式部花鏡』
『新版 若恵比寿吉例之釣初』
『しほかま』
『四人与市』
『卯花重奥州合戦』
『瑠璃紫江戸朝顔』
『絵本頼光山入』
『上股野真田下メ』
『刈萱筑紫櫻』
『女かたき討』
『豊年ばなし』
『朝桜曙草紙』
『頼光一代記』
『根元石橋山』
『遊君須磨明石』
『女くろふね』
『京みやげ』
『天晴梅武士』
『豊歳銭塚之由来』

『敵討鞍馬天狗』
『芋世中』
『昔話猿蟹合戦』
『絵本大江山』

(2) 基礎研究を行った初期草双紙作品を対象とした研究

初期草双紙はそれ以前までに作られて来た絵の構図を踏襲する場合があることが調査の結果明らかになった。ただしそれらは、単に前のものをそのまま無頓着に継承して使用しているのではなく、初期草双紙の作品の中で改めて、解釈し直され、手を加えて作られている。またそれらが、初期草双紙の間で共通の素材として活用されながら、かつ各作品の中で、意味を持って改変されていることも明らかになった。さらに後代の草双紙にも影響を与えていることも明確になりつつある。具体的には次の通りである。

- ① 初期草双紙における絵と文章との関係を分析していくと、絵と文章とが補完し合って表現していることが明らかである。文章で説明されない部分を絵が説明する働きをしている。これにより一画面の中で多くの情報と物語を表現することになっている。→赤本『兎大手柄』、黄表紙『軍法伊澤硯』、黄表紙『敵討鞍馬天狗』、黒本『周防内侍』
- ② 初期草双紙が取り上げている軍記物語を題材とした作品は、軍記物語及びそれらから取材した芸能作品の本に描かれている挿絵の構図を踏襲している傾向がある。しかしそれらもそのままに活用するのではなく、草双紙の作品の物語に沿って新たな解釈が加えられており、一見同じ構図を踏襲しているように見えながら、微細な点で改変し、そこに非常に大きなその作品独自の新しい解釈を施していることが明らかである。→「石橋山伏木隠れ」を題材とした初期草双紙、黒本『須磨浦青葉笛』、黒本『京みやげ』
これらの成果は近世中期以前までに伝承されてきた歴史的事項を、初期草双紙がどのように扱っているかという事実の解明にとどまるのみならず、近世中期における歴史事象についての庶民の認識のあり方の解明にもつながっている。
- ③ その他にも『源氏物語』の初期草双紙化の中に現れている源氏絵の構図の活用。同じく『源氏物語』の石山寺の紫式部の構図の利用の仕方、既に画題として定着しつつあった達磨図の構図の活用等さまざまな初期草双紙における絵の表現方法の分析がなされた→草双紙に描かれた紫式部、黒本『女三宮簾の追風』、弘子太子

と達磨、『藤原のちかた』、黒本『新版 若恵比寿吉例之釣初』

これまで初期草双紙について個々の作品の内容についての研究は進展していたが、初期草双紙の持つ表現方法について具体的な事例を踏まえつつもその総体としての特色を捉えようとする研究は行われてこなかった。本研究の成果はそれについて、具体的かつ包括的なとらえ方ができたところにその成果がある。加えて近世中期文化の一つの形として、その発想の在り方を明確にすることができた。

なお以上の成果については冊子体の研究成果報告書としてまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ① 黒石陽子『『[四人与市]』について』178頁～201頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 28号」2007、査読無し。
- ② 三好修一郎「黒本・青本『[しほかま]』について」151頁～177頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 28号」2007、査読無し。
- ③ 加藤康子「豆本『絵本頼光山入』について」255頁～265頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 28号」2007、査読無し。
- ④ 黒石陽子「『夫は石橋山／是は狂言山上股野真田下メ』について」、1頁～28頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 29号」。2008、査読無し。
- ⑤ 有働 裕「黄表紙『御伽百物語』について」、103頁～128頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 29号」2008、査読無し。
- ⑥ 加藤康子「翻刻・豆本『頼光一代記』について」、165頁～178頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 29号」2008、査読無し。
- ⑦ 黒石陽子「『新板 根元石橋山』について」1頁～27頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 30号」2009、査読無し。
- ⑧ 三好修一郎「黒本・青本『遊君須磨明石』について」、28頁～55頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 30号」2009、査読無し。
- ⑨ 内ヶ崎有里子「合巻『昔話猿蟹合戦』について」、244頁～263頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 30号」2009、査読無し。
- ⑩ 加藤康子「上方絵本『絵本大江山』について」、264頁～279頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 30号」2009、査読無し。
- ⑪ 黒石陽子「初期草双紙における「石橋山伏木隠れ」の描かれ方について」、2頁～14頁、「近世中期文化を視野に入れた初期草双紙の総合的研究」、査読無し。
- ⑫ 三好修一郎「黄表紙『軍法伊澤硯』の典

拠依拠の内実と絵の描かれ方について」、15頁～26頁、「近世中期文化を視野に入れた初期草双紙の総合的研究」、査読無し。

- ⑬ 加藤康子「赤本『兎大手柄』の絵」、27頁～41頁、「近世中期文化を視野に入れた初期草双紙の総合的研究」、査読無し。
- ⑭ 有働 裕「草双紙に描かれた紫式部—その独自性と影響関係—」、42頁～50頁、「近世中期文化を視野に入れた初期草双紙の総合的研究」、査読無し。

〔学会発表〕(計1件)

- ① 黒石陽子 初期草双紙の一代記ものにおける人形浄瑠璃享受の形 演劇研究会 2008年8月31日 同志社大学

〔図書〕(計2件)

- ① 内ヶ崎有里子、有働 裕、大橋里沙、鍛冶聖子、加藤康子、黒石陽子、笹本まり子、杉本紀子、高橋則子、丹 和浩、橋本智子、檜山裕子、細谷 仁、三好修一郎、ジョナサン・ミルズ、山下琢己、湯浅佳子、著 叢の会編 東京堂出版、『草双紙事典』、2006、388頁。
- ② 有働 裕、内ヶ崎有里子、加藤康子、著 叢の会編 笠間書院 『江戸の子どもの本』 2006、107頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒石 陽子 (KUROISHI YOKO)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：40247268

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

三好 修一郎 (MIYOSHI SYUICHIROU)
福井大学・教育地域科学部・教授
研究者番号：40157699

加藤 康子 (KATO YASUKO)
梅花女子大学・文化表現学部・教授
研究者番号：60299005

山下(高橋) 則子 (YAMASHITA (TAKAHASHI) NORIKO)

人間文化研究機構国文学研究資料館・文学形成研究系・教授
研究者番号：40311162

有働 裕 (UDOU YUTAKA)
愛知教育大学・第二部・教授
研究者番号：20213465

山下 琢己 (YAMASHITA TAKUMI)
東京成徳短期大学・言語文化コミュニケーション科・准教授
研究者番号：80230423

内ヶ崎 有里子 (UCHIGASAKI YURIKO)
岡崎女子短期大学・幼児教育学科・教授
研究者番号：00279960

湯浅 佳子 (YUASA YOSIKO)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：00282781